

**日本 NPO 学会第 13 期理事会
第 10 回理事会議事録**

I. 開催日時：2026 年 1 月 9 日（金）19：00～20：00

II. 開催場所：

オンライン会場

Zoom (<https://zoom.us/>) 利用したオンライン開催、以下の URL による
<https://us06web.zoom.us/j/87319692235?pwd=PUftSwanjIEiyubbWdMQm0JeIWxbxn.1>

III. 出席者（出席 14 名、委任状提出 7 名、合わせて 21 名出席）

理事：石田理事、稲葉理事、内田理事、大西理事、川中理事、菊池理事、小嶋理事、
小田切理事、佐藤理事、菅野理事、瀬上理事、田辺理事、筒井理事、永井理事、
中嶋理事、新川理事、西出理事、松本理事、八木橋理事、吉岡理事、李理事
（うち委任状 7 名：内田理事、大西理事、川中理事、小田切理事、菅野理事、筒井理事、
八木橋理事）

監事：出席：今村監事、欠席：國見監事

事務局：日本 NPO センター

IV. 理事会成立、進行、議事録署名人の確認

・理事会の成立の確認

会則第 26 条の定めにより、理事 25 名中、委任状提出 7 名を含め理事 18 名（会議終了時の出席者は 21 名）が出席しており、本理事会が成立していることが確認された。

・議長の確認

会則第 25 条及び正副会長選定規程第 3 条の定めにより、石田会長（第 13 期会長）が議長を務めることが確認された。

・議事録署名人の選出

会則第 26 条第 3 項に基づき、議事録署名人として、菊池理事、西出理事が選出された。

V. 議題

議題、議案については別添の理事会案内、配布資料を参照のこと。

<審議事項>

第 1 号議案 選挙管理委員会の設置について

石田会長から第 1 号議案資料に沿って説明があった。

第 1 号議案は、全員一致で承認された。

第2号議案 入会希望者の承認について

石田会長から第2号議案資料に沿って説明があった。

第2号議案は、全員一致で承認された。

<報告事項>

1. 執行部報告について

石田会長から報告1資料に沿って説明があった。

2. 編集委員会報告について

吉岡編集委員会委員から報告2資料に沿って説明があった。

<Q&A>

●編集委員会での論文の審査での議論を補足。日本NPO学会ではリジェクトされた論文もリバイスすれば再投稿が可能だが、できないと思っている会員もいるため、明確にしてはどうかという意見が出ている。

●再投稿の扱いはどのようになっているか。

→日本NPO学会では新規の扱いになっている。

●リジェクトされた論文の査読コメントは共有されるのか？

→再投稿は新規の扱いとされ、また査読者は、担当査読論文以外の情報は閲覧できないため過去や他のレビュアーコメントは閲覧できない。

→前回のコメントを参考情報として共有できた方が査読がしやすい、という考えもあるのではないか。

●Vol25-No2について、参考までに、どの程度リジェクトがあったのか。

→4割程度と思われる。

3. 学術研究委員会報告について

小嶋学術研究委員長、瀬上委員から資料3に沿って説明があった。

<Q&A>

●若手研究者助成金について、2024年度は申し込みが多かったが、2025年度は減った。

→ARNOVA-Asiaが2024年度で終了し学生が参加しやすい国際学会がなくなったことも一因ではないか。

●1月26日のセミナーは会員向けか、一般参加も可か。

→一般参加も可。多くの方に参加してほしい。

4. 活動計算書について

石田会長から報告 4 資料に沿って説明があった。

<Q&A>

- 「会議費（事業）」が 846,520 円となっているが、内訳は？

→研究大会の事業費（交流会費、エクスカージョン等）を「会議費（事業）」の勘定科目で計上している。

5. 退会者について

石田会長から報告 5 資料に沿って説明があった。

6. その他

○新川学会賞選考委員長から

学会賞の応募状況は、現時点で 5 件。推薦をお願いしたい。

○田辺大会運営委員会委員から

研究大会の応募状況は、本日締め切りで 15 本。応募をお願いしたい。

○菊池組織運営委員長から

前の理事会で提案した長期会員制度について、3 月の理事会で議案を出したい。学生会員と同じく年会費 5000 円で設定できないか検討中。

○小嶋学術研究委員長から

第 9 回理事会（メール理事会）で報告したことだが、補足させていただく。

学術研究委員会にてスタディグループについて検討している。論点は 3 つ。「テーマ設定について、学会でテーマを決めるとして、専門分野が多岐にわたる当会でテーマを決められるのか」「参加者がいるか」「学会から助成するとして成果の評価をどうするか」。

委員会として長く検討しているが難しい。

<Q&A>

- 海外の学会のスタディグループは盛り上がっているが、日本との文化の差なのか。

- 他の学会では、スタディグループが研究大会のセッションを担当したり、学会誌に投稿したりしている。そのような役割（権利）を付与することも一案ではないか。

→その場合は、他の委員会との連携が必要になり、学術研究委員会で担うのは難しいのではないか。

→スタディグループがたくさんあり、理論研究、実践、実務など多くの分野のグループが成果を高め合うような環境ができてよいのではないか。

●研究大会のセッションを決めるとき、テーマの共通項を見つけグルーピングする難しさを感じた一方、ある程度関係性の近いテーマの研究者が継続的にディスカッションできる場の必要性も感じた。

●企業等の実務者も、学び続けないと組織が伸びないという危機感を持ち学会で学ぶ人もいる。委員会を越えて横串を刺すような取り組みは重要であろう。

●他の学会のスタディグループの例を見ると、似通ったテーマや顔触れになっていくことも多い。NPO 学会は会員が異なる学問分野であることが強みであり、様々な分野の会員を繋げられるようなグループ設定をして、活動出来たらよいと思う。

●まずは1グループで始めてみたらどうか。

→正式にやらずにスタディグループとして仮置きして始めるのもいいかもしれない。

●やりたい人を浮かび上がらせる仕掛けづくりも必要。

●共通のテーマは見つけにくいかもしれないが、皆なんらかの観念的な課題意識は持っているのではないか。

以上をもって議案の審議等をすべて終了したので、20時に議長は閉会を宣言し解散した。

以上

上記、この議事録が正確であることを証する。

2026年 1月 20日

議 長 石 田 祐

議事録署名人 菊 池 遼

議事録署名人 西 出 優 子